

えひめ

Contents

特集

- ～その1～ **事業現場リポート（三島川之江港多目的国際ターミナル整備事業）**
- ～その2～ **海洋環境整備事業のとりくみ**

●ニュース&トピックス

- ▼今秋のイベントだより ～多くの人々とふれあいました～
- ▼四国みなとオアシス協議会 通常総会・オアシス交流物産展を開催
- ▼出前講座「松山港の概要について」を実施
- ▼新居浜港物流懇談会を開催

●コラム「えひめのみなと素描」スケッチ③ ～八幡浜港～

八幡浜港みなとまちづくり協議会会長 谷本 典量 氏

●コースライン・アラカルト ▼シーサイド留学の島 野忽那 松山市立野忽那小学校よりご紹介

三島川之江港金子地区多目的国際ターミナルの暫定供用に向けて

現場担当
レポート

空から見た三島川之江港
(H19.3 撮影)



概要

三島川之江港は、地場産業である製紙工業の生産活動の増大とともに発展し、大小200以上の製紙関連企業の原材料や紙製品の輸送を支えています。

このような背景のもと、当所では平成14年度より、水深14mの岸壁を中心施設とした多目的国際ターミナル整備事業を推進しており、製紙関連の輸送船舶における滞船状況の緩和、急増するアジア等のコンテナ物流への対応、さらなる国際競争力強化などを目的に、今年度末の暫定供用を目指して整備を進めています。

今回、各港湾施設の11月時点での進捗状況を現場レポートします。

岸壁 (-14m)

5万DWT級の貨物船が接岸可能な岸壁 (-14m)【総延長280m】が姿を表してきました。現在は埋立や、将来、ガントリークレーンの設置に必要な基礎を施工しています。今年度末には舗装も施され、荷役スペースが完成する予定です。

岸壁 (-14m)【H19.3撮影】



岸壁 (-14m)【H19.11撮影】



撤去ケーソン据付の様子



防波堤 (北) (ケーソン全函の据付完了)



泊地 (-14m)

暫定供用に必要な岸壁前面の泊地浚渫しゅんせつ (船舶が安全に停泊・方向転換するための海域の海底土砂を掘り下げること)が今年9月に完了しています。現在、泊地内にある全62函の既設防波堤の撤去、防波堤等の他施設への再利用を行っています。更に今後は、防波堤撤去跡地に残る石・土砂などの撤去を行い、泊地全体の整備を進めていきます。

防波堤 (北)

入出港時や接岸時の波浪から船舶を守るための防波堤【全延長990m】のうち、約720mはほぼ完成し、今年度は残り約270mを延伸します。泊地で撤去したケーソン16函の再利用も行いながら、今年度末には防波堤(北)が概ね完成する予定です。

護岸 (防波)

波浪から荷さばき地などをまもるための護岸(防波)【全延長320m】のうち、273mがほぼ完成し、今後は残りの47mを施工します。今年度末には全延長の320mが完成する予定です。

現在、三島川之江港金子地区では今年度末の多目的国際ターミナルの暫定供用に向けて、急ピッチかつ安全に工事を進めています。また、平成18年に当港がリサイクルポートに指定されていることより、同時に静脈物流の拠点としてもその重要性は増しております。

以上、三島川之江港事務所現場担当よりお届けしました。



* 滞船……岸壁の混雑や荷役の遅れのため本船が着岸できず港内外に停泊している状態。
** DWT……船舶が積載できる貨物の重量を示す単位。

海面清掃兼油回収船「いしづち」が木材チップ回収へ出動

当 事務所では海面清掃兼油回収船「いしづち」を昭和52年度より配備し、日々、瀬戸内海海域のごみ回収を行っております。また、船舶事故等による流出物防除のため、要請を受けて緊急出動することもあります。

10月28日夜に発生した貨物船同士の衝突事故（伯方島沖の船折瀬戸）で、積載していた木材チップなどが流出。翌朝、防除作業のため現地へ緊急出動しています。

災害対策用ヘリコプター「愛らんど」号や付近の漁船と協力しながら、2時間にわたる防除作業を実施。関係各機関の迅速な対応により、周辺環境や航行船舶への影響は最小限に抑えられました。



茶色い帯状のものが流出した木材チップ

いしづち作業状況
災害対策用ヘリ「愛らんど」号より

回収された木材チップ



いしづちの作業海域（約 2,800km²）

大小3,000もの島を有する瀬戸内海では、フェリー・タンカー・漁船など、多種多様な船舶が所狭しと往来しています。多島美で知られる瀬戸内海ですが、「海の難所」と呼ばれる危険な海域も多数存在しています。

そのような海域を中心に、頻りに海難事故が発生しており、事故による流出物のため、海洋環境に与える悪影響も懸念されています。

今後も引き続き、世界に誇れる美しい瀬戸内海を守るために、海洋環境整備事業に取り組んでまいります。

いしづちを体感！（くらしと技術の建設フェアin松山）

11月16日（金）、17日（土）の2日間、「くらしと技術の建設フェア」が開催されました。今年度はアイテムえひめを会場に、産・官・学138のブース出展があり、過去最高の約6,300人の来場者でにぎわいました。

当所は、「おそうじ三兄弟」ゲームや、いしづちラジコンを使ってのスーパーボールすくいなど、体感型ブースを出展。子供たちを中心に、楽しみながら、「海洋環境整備事業」を肌で感じていただきました。

実際に、ごみに見立てたスーパーボールをラジコン操作で回収することにより、ごみ回収のしくみをよりリアルに伝えることができ、来場者からも「大変わかりやすかった」との声をいただきました。



参加者同士で真剣勝負



大人気のいしづちラジコン



ガントリークレーンも見学

17日には、松山港みなと見学ツアーを開催。午前と午後を合わせて80名を越える参加者が乗船しました。ご参加、誠にありがとうございました。

今秋のイベントだより ～多くの人々とふれあいました～

松山空港「空の日」イベント(空港整備事業をPR)

9月15日(土)、松山空港にて「空の日」イベントが開催され、多くの家族連れでにぎわいました。今年も地球儀をモチーフにしたマスコット「くにまるくん」なども登場し、子供たちも大喜びの様子でした。当所ブースでは、空港模型、風洞実験模型などを展示。空港整備の歴史から、現在の空港の様子、飛行機が飛ぶメカニズムなど、当所が取り組んでいる空港整備事業について、PR活動を行いました。

愛媛県総合科学博物館の関係者の皆さん、風洞実験模型の展示協力をいただきありがとうございました。



空の日イベント 風洞実験で子供たちも大喜び!

みんなの生活展2007(海洋環境整備事業をPR)

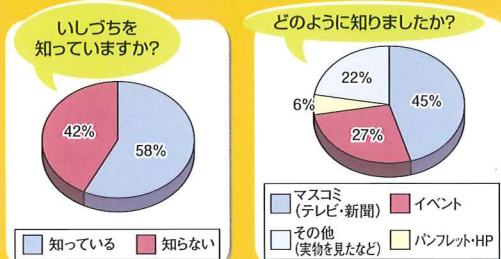
10月20日(土)、21日(日)の2日間、松山市大街道商店街にて「みんなの生活展2007」(松山市主催)が開催されました。本イベントは、環境・消費者生活・健康の3つの問題を市民により理解していただくことを目的として毎年開催されています。イベントでは、「いしづち」の活動の紹介を中心とした、海洋環境整備事業についてPR活動を行いました。

当日は、買い物客など多くの人が行き交うなか、いしづちラジコン模型展、ビデオ上映などを交え、その必要性や役割を知っていただきました。



みんなの生活展 多くの来場者が訪れました

みんなの生活展アンケート結果(抜粋)



四国みなとオアシス協議会 通常総会・オアシス交流物産展を開催(10/13~14)

四国みなとオアシス協議会は、四国のみなとオアシスの連携と交流を図ることで、その知名度や魅力を高め、みなとまちの活性化を推進させることを目的に平成18年度に設立されています。

今年度の通常総会は、八幡浜港みなとオアシスを会場に、オアシス運営団体など約50名の出席者を集めて開催されました。総会では、今後の協議会活動の指針などを審議・採決した後、出席者による意見交換が行われました。

各オアシスからは、この1年間の活動成果の報告があり、みなとオアシス制度の発信地としての四国がさらに活動を強化させ、今後は、新しい情報の発信地として連携していくことで、共通の認識を深めました。

翌日は、海鮮朝市会場の隣で、オアシス交流物産展を開催。あいにくの雨模様でしたが、各オアシスの物販や地元ミュージシャンによるライブなどが行われ、多くの来場者でにぎわいました。



通常総会では、活発な意見交換が行われました



物産展(八幡浜ちゃんぽんや讃岐うどんが大人気)



～おまけ～

海鮮朝市で販売されている海鮮丼(700円)大変美味です。

出前講座「松山港の概要について」を実施(10/23)

愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会の地理部門研究会（会場：松山北高校）の一環として、「松山港の概要について」と題し、出前講座を行いました。

中予地区の地理担当高校教諭（約40名）に対し、松山港の歴史や現況データの紹介を中心に約1時間に及び説明を行いました。100年前の高浜港や三津浜港の写真や、松山港の取扱貨物量データなどを前に、熱心にメモを取る様子が見られました。

説明後、「水深マイナス13m岸壁が完成すれば、取扱貨物量は今後どのくらい伸びるのか」、「外港地区とのアクセス道路の整備は進んでいるのか」といった質問が出され、松山港外港地区に対する関心の高さをうかがうことができました。また、地理歴史・公民部会長の栗田校長（松山東高校）からは、「多くの高校生が、国の整備事業を知る機会」が少ないというご意見もいただきました。

【今秋実施した出前講座・現場見学会】

10/19 三島川之江港現場見学会（松山工高土木科）

10/29 いしづち見学（野忽那小）

10/30 出前講座「干潟の説明」・東予郷土館見学（吉海小）

出前講座・現場見学会のご案内

★お問い合わせ・お申し込みは下記まで★

【お問い合わせ先】松山港湾・空港整備事務所 企画調整課
TEL:089-951-0162 FAX:089-946-8010
E-Mail:mtjm-i88s3@pa.skr.mlit.go.jp



多くの先生方の前で力説する渡邊先生！?



カブトガニとたわむれる吉海小の皆さん

いしづちの説明を受ける野忽那小の皆さん



三島川之江港を見学する松山工高の皆さん

新居浜港物流懇談会を開催(11/8 於：リーガロイヤルホテル新居浜)

瀬戸内有数の工業都市として知られる新居浜市において、新居浜港を利用する荷主業者や港運業者など11の事業者の方々にご出席いただき、物流懇談会を開催しました。本懇談会では、各港湾利用者と整備局や新居浜港務局など関係行政機関がそれぞれの立場で、現状の問題点や利用促進に必要な今後の港湾整備の方向性について、情報提供や意見交換を行いました。

港湾利用者からは、「新居浜港には大水深の公共岸壁がない」「ニーズに対応した多目的国際ターミナルの早期整備を求む」「インフラ整備がなければビジネスチャンスを逃してしまう」など、効率的な港湾整備を望む声が多数上がりました。

意見交換会の最後に、新居浜港務局委員会の石川委員長（新居浜市副市長）より、「市の産業や経済活動の発展のためには、多目的国際ターミナルの整備は必要不可欠。今後は、港湾利用者の方々と定期的に意見交換を図るため、利用促進協議会を立ち上げたい。」と地域の意欲を伺わせる総括をいただきました。



出席者の皆さんより、前向きなご発言をいただきました



意見交換会の座長を務める当所所長



八幡浜港みなとまちづくり協議会
のりお
会長 谷本 典量 氏

プロフィール

- 1971年 日本大学理工学部卒
- 1988年 (株) 谷本蒲鉾店
代表取締役社長
- 1993年 佐田岬リゾート (株)
代表取締役
- 2001年 八幡浜商工会議所
副会頭
- 2003年 八幡浜港みなとまちづくり
協議会 会長
※その他多数歴任

住民参加のみなとまちづくり

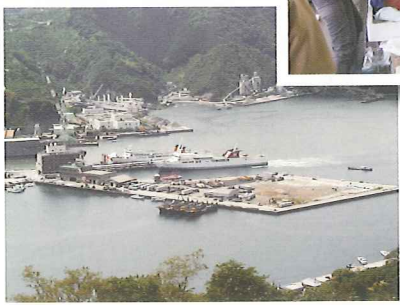
八幡浜市が策定した地域再生を目指した「八幡浜港振興ビジョン」の実現を図るため、市民が中心となって「みなとまちづくり」に参加し、活動する組織として、平成15年8月「八幡浜港みなとまちづくり協議会」と「ワーキンググループ」が設立されました。いわば「知恵袋隊と行動部隊」で、港湾利用者をはじめ学識、水産、交通、商工、農水、女性団体、県、市、教育、マスコミ、ボランティア関係等々市内の各界各層より構成されており、誰でもいつでも気軽に参加できる組織となっております。

活動として、市民フォーラムの開催、みなとまちづくりプランの策定、みなとづくりコンペの実施等により、市民の立場から「振興ビジョン」の実現を見据えた取り組みを行っています。また、年間約50万人のフェリー乗降客や観光客を、みなとから中心商店街や歴史的町並みへ誘導するため、毎回約5000人の来場者がある「やわたはま海鮮朝市」を核とした様々なイベントや社会実験を実施してきました。

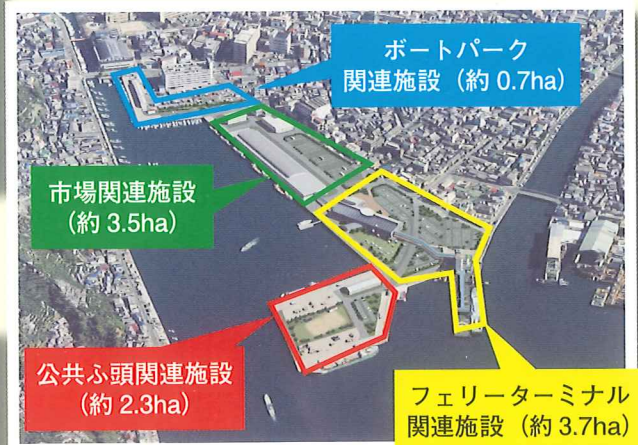
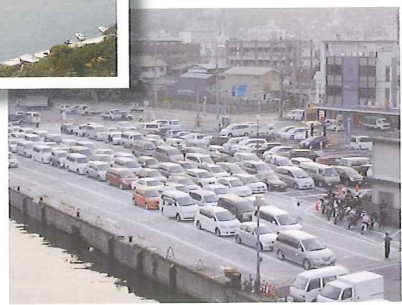
また、平成17年8月には、四国地方整備局などが推進している「みなとオアシス」に登録され、みなとオアシスのネットワークを活用した情報発信や他のオアシスとの交流・連携を積極的に進めております。

このような取り組みの中、港湾・漁港の整備も順調に進み、主な施設の完成予定は平成24年度となっております。八幡浜港が、名実ともに四国の西の玄関口としての役割を果たすべく、港湾機能の充実とあわせてこの地域の中核的な交流拠点となる日が待望されています。今まさに八幡浜港が生まれ変わろうとしています。

やわたはま海鮮朝市
(毎月第二日曜開催)
鮮魚を安く手に入れる
ことができます



多くの車でにぎわう
フェリーふ頭



生まれ変わろうとしている八幡浜港
(八幡浜港振興ビジョン 完成予想図)

～シーサイド留学の島 野忽那のぐつな～

松山市立野忽那小学校よりご紹介

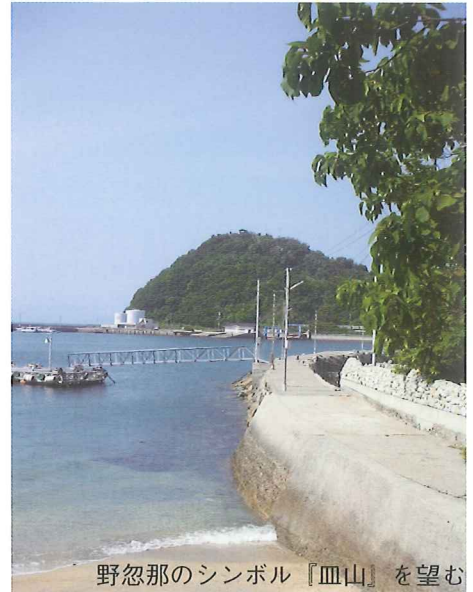
野忽那は美しい。皿山の展望台から眺める360度のパノラマ。すすきの間海の泳いでいくタンカー。きらめく残照。

野忽那は懐かしい。迷路のような蟹路地あまろじ。昭和が匂う民家。陽だまりに集うお年寄り。

野忽那はおいしい。梅雨前だけに採れる海草「海そうめん」。茹でてほぐすとパスタのようになる摩訶不思議な「そうめん瓜」。次々と登場する密柑の新品種。

野忽那では、昭和63年に島民の総意によるシーサイド留学制度が発足。以来、今年で20年目を迎え、毎年日本各地から小学生を受け入れ、豊かな自然を教育素材として体験学習を積み重ねています。

その一つが「海の安全と環境」です。



野忽那のシンボル「皿山」を望む

海の安全と環境

海を漂流するごみはどうなるのか、海の問題にも目が向くようになってきた子供たち。

今年10/29(月)に三津にある松山港湾・空港整備事務所を訪問。海面清掃兼油回収船「いしづち」の活躍ぶりを勉強しました。この日、船舶同士の衝突事故による流出物回収のためいしづちが出動。早速、その役割を目の当たりにしました。

他にも、中予水産試験場のご指導による「藻場づくり体験」や、松山海上保安部による「灯台や巡視艇の見学」なども行い、野忽那の子供たちは、「海の安全と環境」を学んでいます。

松山港湾・空港整備事務所のみなさん
空港
五年 大田おれ

いしづちの活躍を拝見して、ありがとうございます。私も、お船に乗ってみたいと思います。あつ、いしづちの役割や仕事について教えてもらって、とても勉強になりました。お船に乗ってみたいと思います。ありがとうございます。



野忽那小児童6名の皆さんからお礼状が届きました(5年 大田すみれさん)

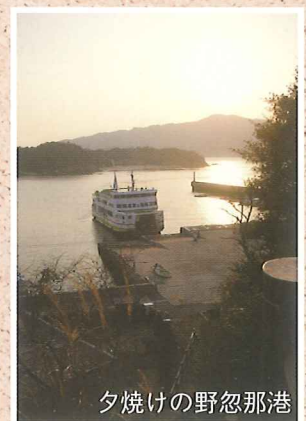


創立130周年の野忽那小学校

野忽那小学校のHPと連絡先はコチラ
<http://www.matsuyama-edu.jp/~s-noguts/index.htm>
TEL:089-998-0330 FAX:089-998-0332



野忽那島スケッチ



所長挨拶

本年も残すところあと僅かになりました。読者の皆さまにおかれましてはどんな年であったでしょうか。

尋常ではない異常なまでの暑さであった本年、特に「地球温暖化」がこれだけ話題になった年もなかったのではないのでしょうか。当所としましても以前から環境問題を中心に広報活動を行ってきたところですが、本号においても、秋に行った海面清掃船「いしづち」を中心とした環境イベントの報告を掲載しています。また、今年度末の暫定供用を目指して整備中の、三島川之江港金子地区多目的国際ターミナル整備事業の現状についても特集しております。ぜひ、ご覧下さい。

ところで、地球温暖化防止策の一つとしてCO₂の削減がありますが、「国交省CO₂削減アクションプログラム」の中に、荷主と物流事業者が一体となった物流効率化への取り組みの支援が謳われております。貨物輸送のモードを

陸路から海運へ転換（モーダルシフト）する傾向が強まるなか、私どもの港湾整備は、RORO船などの複合一貫輸送に対応した岸壁の整備も行うこととしており、これはトラック等の自動車交通量の低減、ひいてはCO₂削減効果につながる一例だと言えます。

今後は、こうした地球温暖化防止についての啓蒙を中心とした紙面の更なる充実化を図り、より一層皆さまに親しまれる広報誌を目指してまいりたいと考えております。

今年一年、「コーストラインえひめ」をご愛読いただきまして誠にありがとうございました。来年もぜひ、本誌をご囃員によりしくお願い申し上げます。寒さもひとしお厳しくなりましたが、お体には充分気を付けていただきまして、どうぞ良い年をお迎え下さい。



国土交通省四国地方整備局
松山港湾・空港整備事務所

所長 岡林 昭夫

* 交通渋滞緩和・解消及び車の利用方法の改善などを体系的かつ集中的に実施するため、平成17年12月に策定
** フェリーのようにランプを備え、トレーラーなどの車両を収納する車両甲板を持ち、自走で搭載・揚陸できる構造の貨物船

編集後記

猪突猛進のごとく平成19年がかげぬけ、新しい年の幕開けも間近となりました。読者の皆さんにとってこの一年はいかがでしたか？私事ではありますが、子供の成長の早さに驚くばかりの一年でした。教えていない言葉を急に発したり、突拍子もない行動をとったり…。子供のアンテナの多さとスポンジのような吸収力にはいつも驚かされます。社会人ともなると、自分の領域にしか力を注がなくなりがちですが、子供に感化され、様々な領域に目を向けないといけないと自省する1年でもありました。来年は自省するだけでなく、ネズミのような行動力も養い、さらに地域に役立つ広報誌作成に取り組んでまいります。それでは、皆さんにとって来年も良い年でありますように。

企画調整課 東

— 事務所位置図 —



〒791-8058 松山市海岸通2426-1
TEL 089-951-0161(代表) FAX 089-946-8010



〒799-0402 四国中央市三島紙屋町6-45 四国中央市港湾庁舎
TEL 0896-24-1808(代表) FAX 0896-28-1036